

Title	三田史學研究會例會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1942
Jtitle	史学 Vol.20, No.4 (1942. 6) ,p.155(641)- 156(642)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19420600-0155

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

鯉を飼ふ。三貫目もあるものが一匹居た。往時は此の邊迄舟で漕ぎつけたとのことである。されば今の参道は昔の側面であつたであらう。香取神宮でも同じ様なことが考へられる。

要石、本殿の東南三町の所にある。古來神聖な石とされ、俗説によれば根が金輪際にくくと。

本殿へ引返す。途中東雄樓の碑を傍に見た。社務所の傍に玉座を納めた小舎があつた。昭和四年大演習の際行幸遊ばされた時のものとのこと。社務所で古文書拜観す、當社の古文書は今全十八巻に新装せられてある。

秀吉の禁制、佐竹氏の文書、政所解文、古河公方文書、勸進帳、傳馬の仕立を命ずる廻狀、石田三成の書狀、鹿島大神宮諸神官補任之記(享祿二年三月二十七日大宮司則久)、寄進狀、鹿島神宮天葉若木の事、鹿島大神宮領田數註文、足利尊氏の下知狀、細川頼之の書狀等

貴重なる史料が澤山に收められてあり、また修善寺紙、壇紙等の實物研究上得る所のものが多かつた。猶雪村筆百馬圖一帖(室町時代の作)在つた。

午後三時五十分鹿島神宮出發、ハイヤー二臺を備ふ。同四時二十分大船津より遊覽船に乗つて夕暮に向ひつゝある北浦湖上を滑る様に進む。

午後六時二十分佐原着、驛前で夕食を済し、同九時四十一分兩國着。解散す。(笠尾國彦記)

三田史學研究會例會報告

昭和十六年

四月三十日(水)午後三時 於萬來會 新入生歡迎會(第三百十二回例會)

ランケの「政治問答」に就いて

神山 四郎君

蘭衍の世界觀と印度思想

橋本 增吉氏

五月十三日(火)午後三時 於萬來會(第三百十三回例會)

江戸時代の浴場風俗

椎野 英司君

北條氏執權時代の概要

柳澤 最昭君

社會學の歴史的 성격に就いて

米山 桂三氏

五月二十九日(木)午後三時 於萬來會(第三百十四回例會)

鎌倉幕府の對公家政策

川畑 保彦君

明史日本傳よりみたる日明關係

小島 一仁君

天正使節に關する一記念碑銘

吉浦 盛純氏

六月二十四日(火)午後三時 於萬來會(第三百十五回例會)

上代屯倉に就いて

笠尾 國彦君

支那繪畫史上に於ける牧溪の位置に就いて

北野 政義君

契丹民族の興起と畫像石の古墳

八木獎三郎氏

九月三十日(火)午後三時 於萬來會(第三百十六回例會)

近世初期に於ける樂市樂座政策の一考容

近江を中心として

菊地 正世君

支那に於けるネストル教及びその碑

加藤 忠彦君

英國自治領民族主義

間崎 万里氏

パグダード鐵道問題

鈴木喜三郎君

十月二十八日(火)午後三時 於萬來舍(第三百十七回例會)

昭和十七年

文治以前の守護

石谷 祐吉君

一月二十日(火)午後三時 於慶應クラブ別室(第三百二十回例會)

傳奕をめぐる排佛論争

調所 武夫君

和邇其他肥蟲類名儀考

松本 信廣氏

免罪符の史的考察

三松 吉介君

十一月十五日(土)午後一時 於交詢ビル慶應クラブ別室(第三百十八回例會)

西山の亂勃發當初の情勢に就いて

陳 荆和君

火藥陰謀事件の顛末

竹田 豐英君

古事記と國家精神

倉野 憲司氏

神父コスメ・ド・トレスの生涯について

福田 兼治君

二月七日(土)午後一時 於慶應クラブ別室(第三百二十一回例會)

江戸時代洋學者の語學について

板澤 武雄氏

葉隠に於ける死について

太田 次男君

十一月二十九日(土)午後二時 於芝三縁亭

川畑 保彦君

西歐封建制度の特徴

上原 專祿氏

卒業論文披露兼送別會 (第三百十九回例會)

貞永式目の史的觀察

富山賣藥商人の地方に於ける活動に就いて

以上

富山賣藥商人の地方に於ける活動に就いて

近江 義光君

特に行商先薩摩を中心として

侯野 清君

本居宜長についての一考察

伊藤 武夫君

盛唐の長安

赤澤 眞人君

濠洲及日濠關係の歴史的考察

積田 俊夫君

ドイツ關稅同盟と普墺商業政策の轉換

吉野 義男君

ノヴゴロド・ロシヤの特殊的發展の條件について

使徒時代より中世初期の教會音樂及び

グレゴリオ聖歌に就いて

江上 次郎君